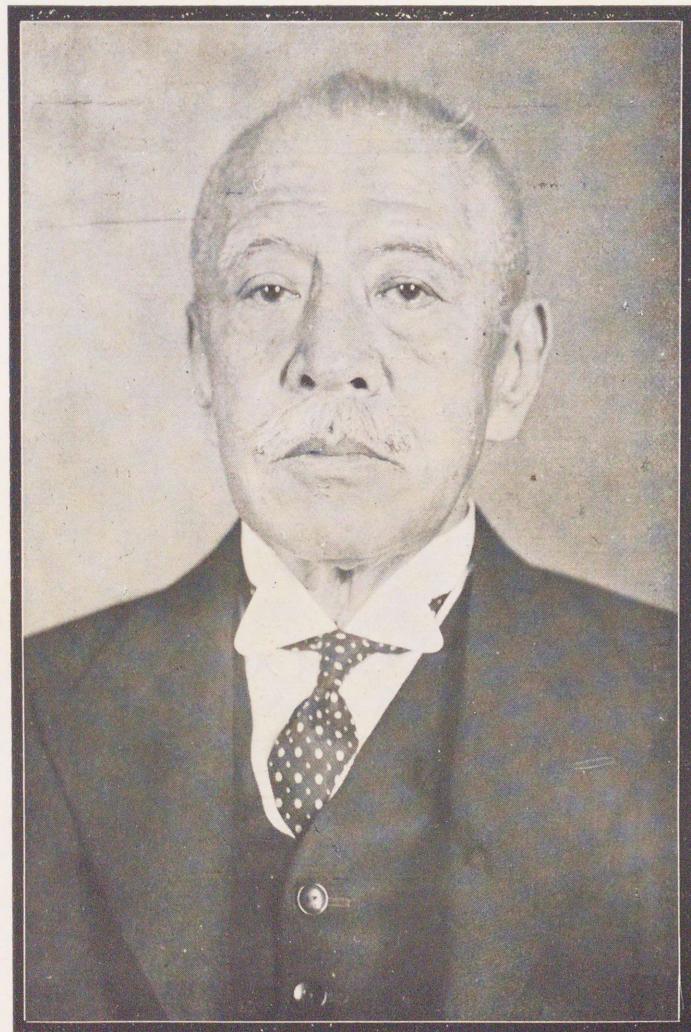


7 8 9 130 1 2 3 4 5 6 7 8 9 140 1 2 3 4 5 6 7 8 9 150 1 2

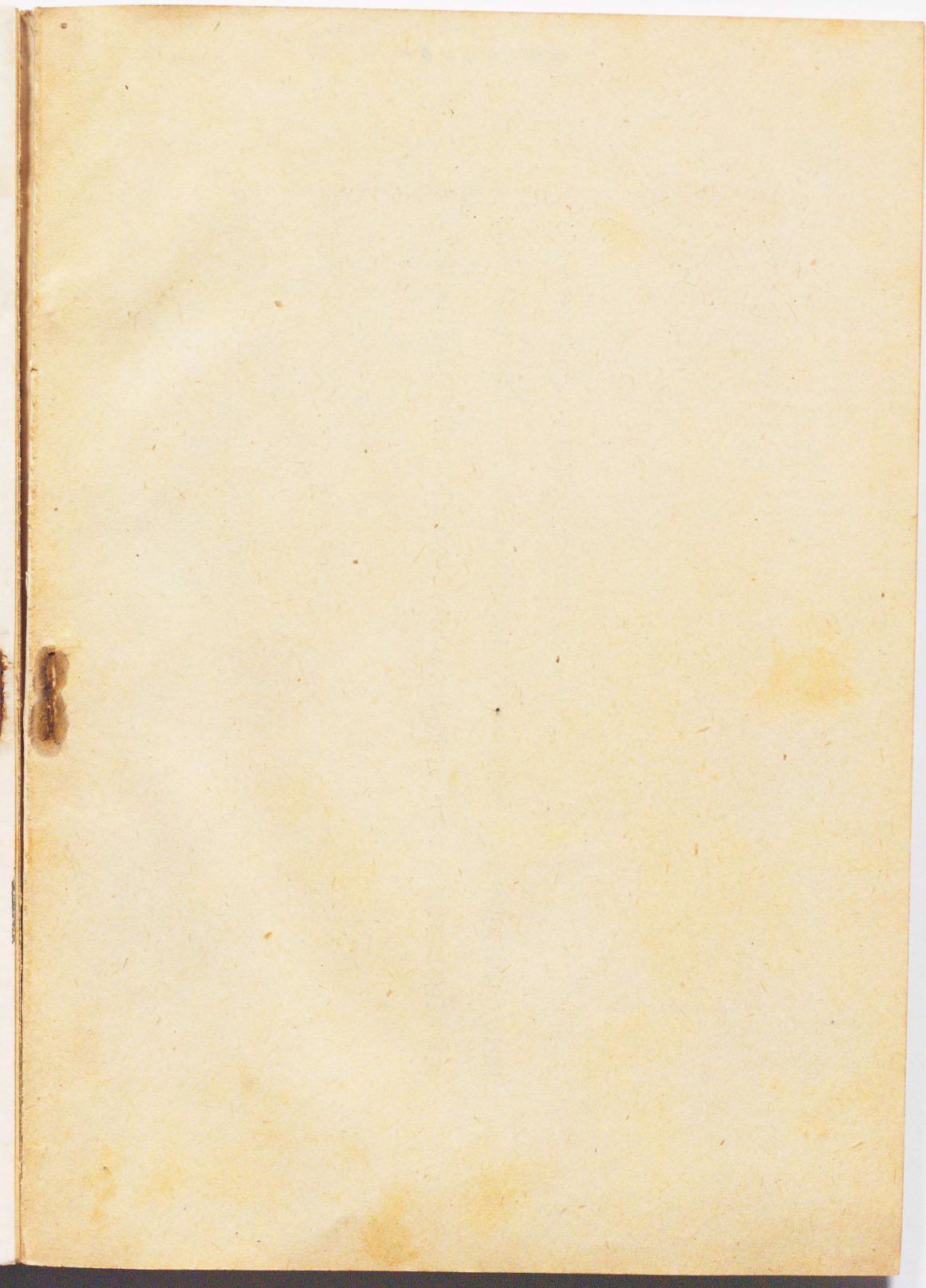
経済研究センター

はしがき

本会報は財團法人世界經濟調査會の活動状況を記録し、これを當會の役員並びに當會設立の趣旨に賛同せられ、有力な支援を賜はつてゐる朝野諸方面の各位に報告として頒つことを目的として、隨時、刊行されるものである。



本會長會故男爵誠之助閣下





所務事會本
(八ノ二町手大區町幾)

本會ハ會長男爵鄉誠之助閣下ノ薨去ヲ悼
ミ謹ンテ弔意ヲ表ス

昭和十七年一月二十日

財團法人世界經濟調査會

理事長 澤田節藏

名古屋大学図書



11863905

経済研究センター

會報 第貳號 目次

寫眞

本會會長故男爵郷誠之助閣下
本會事務所

郷會長の薨去を悼む

本會概況

第二回理事會

大阪支部發會式

澤田理事長滿洲國出張

蘆野常務理事上海出張

ヴァールタート氏講演會

委員會及び研究部概況

出版概況

事務所新築及び移轉

附錄

寄附行為並諸規程

昭和十六年度豫算

以上

四四

三三

二二

一一

一〇

九九

八八

七七

六六

五五

四四

三三

二二

一一

郷會長の薨去を悼む

本會々長正三位勳一等男爵郷誠之助閣下は豫て宿病御療養中であつたが、藥石效無く遂に昭和十七年一月十九日溘焉として薨去せられた。寔に哀悼の至りに堪へない。

閣下がその七十七年の御生涯に於て我が財界政界に遺された偉大なる御功績は、偏に閣下の高邁なる識見と豪毅廉直確固たる信念を以て至誠公に奉じ些かも私心を挟まれなかつた御人格によるもので、輓近我國未曾有の重大時局打開の爲めに企畫された經濟產業上の重要國策が多く閣下の御指導誘掖の下に運營せられつゝあつたことは洵に宜なりと言ふべきである。

殊に閣下は本會に就てはその前身たる日本經濟聯盟會對外委員會の創立當初より今日財團法人として事業を擴充するに至る迄、名實共に會長として陰に陽に非常なる御盡力を賜はつたことは、本會役員及び職員の永く忘るゝ能はざるところで、吾々は閣下の遺志を繼いで本會の使命達成に邁進せんことを期するものである。

郷會長履歴

- 一、慶應元年壹月八日東京ニ誕生
- 一、明治拾七年貳月獨逸ニ留學「ハイデルベルヒ」大學哲學部ニテ修業シ同貳拾參年「ドクトル、フキロソフキエ」ノ學位ヲ

一、明治貳拾四年拾貳月歸朝

一、明治貳拾五年農商務商ヨリ農商工ニ關スル事項調査ヲ囑託セラレ同年頃ニ依リ同囑託ヲ解カル

一、明治貳拾八年拾月日本運輸株式會社取締役社長ニ當選就任同參拾四年七月辭職ス

一、明治參拾壹年日本「メリヤス」製造株式會社取締役ニ當選就任同參拾九年參月同社任意解散ニ付退職ス

一、明治參拾貳年參月日本鉛管製造株式會社ヲ創立シ社長ニ當選就任同參拾八年參月同社任意解散ニ付退職ス

一、明治參拾參年七月入山探炭株式會社取締役社長ニ當選其後辭任ス

一、明治參拾參年九月拾日從五位ヲ授ケラル

一、明治參拾六年王子製紙株式會社取締役ニ當選就任同四拾四年七月任期滿了ニ付退職ス

一、明治參拾九年四月日本火災保險株式會社取締役ニ當選就任同四拾四年六月辭職ス

一、明治四拾壹年貳月株式會社帝國商業銀行取締役會長ニ當選就任大正貳年壹月會長辭任同月取締役ニ當選就任昭和貳年四月第參銀行ト合併ニ依リ同社取締役ニ就任昭和拾年壹月辭職ス

一、明治四拾貳年參月拾五日合資會社日本鉛管製造所無限責任社員ニ就任

一、明治四拾貳年七月貴族院議員ニ當選ス

一、明治四拾四年七月拾日正五位ヲ授ケラル

一、明治四拾四年拾貳月貳拾貳日株式會社東京株式取引所理事長ニ當選就任引續キ重任大正拾參年拾壹月辭職ス

一、大正貳年五月東京商業會議所特別議員ニ選任セラレ昭和貳年ニ至ル

一、明治四拾四年七月拾日正五位ヲ授ケラル

一、明治四拾四年拾貳月貳拾貳日株式會社取締役ニ當選就任

一、大正五年壹月日本郵船株式會社相談役ニ就任ス昭和拾壹月壹日辭任

一、大正五年四月壹日勳四等ヲ授ケラル

一、大正六年拾壹月東洋製鐵株式會社取締役社長ニ就任昭和九年參月參拾壹日日本製鐵株式會社ニ合併ノ爲メ同社解散ニ付退職

一、大正七年拾壹月軍需評議會委員ヲ命セラレ大正拾壹年拾壹月壹日同委員會委員ヲ免セラル

一、大正七年七月臨時財政經濟調查會委員ヲ命セラレ同會特別委員長ニ選任セラレ大正拾參年四月拾八日同委員ヲ免セラル

一、大正拾年拾貳月七日東洋製鐵株式會社取締役社長ニ就任昭和九年參月參拾壹日日本製鐵株式會社ニ合併ノ爲メ同社解散ニ付退職

一、大正七年八月軍需評議會委員ヲ命セラレ大正拾壹年拾壹月壹日同委員會委員ヲ免セラル

一、大正七年七月臨時財政經濟調查會委員ヲ命セラレ同會特別委員長ニ選任セラレ大正拾參年四月拾八日同委員ヲ免セラル

一、大正拾年拾貳月七日臨時財政經濟調查會ニ於テ稅制整理委員被仰付、同會ノ特別委員長トシテ約一ヶ年間從事セリ

一、大正拾年七月臨時法政審議會委員ヲ被仰付、同年四月議事規則第拾五條ニ依リ諮問第五號主查委員ニ選任セラル

一、大正拾參年貳月旭日小授章ヲ授ケラル

一、大正拾參年五月參拾壹日勳三等ヲ授ケラル

一、大正拾參年五月參拾壹日金杯壹組ヲ授ケラル

一、大正拾參年拾貳月株式會社東京株式取引所相談役ニ就任昭和拾壹年拾貳月貳拾參日辭任

一、大正拾四年七月拾日貴族院議員ニ當選ス

- 一、大正拾五年拾貳月壹日正四位ニ敍セラル
- 一、昭和貳年五月金融界ノ恐慌ニ際シ時ノ大藏大臣高橋是清氏ノ委囑ニヨリ十五銀行並ニ株式會社川崎造船所ノ整理ニ從事セラル
- 一、昭和貳年五月貳拾四日商工審議會委員ヲ被仰付
- 一、昭和貳年八月貳拾八日東京電燈株式會社取締役會長ニ就任
- 一、昭和參年五月東京商工會議所顧問ニ推薦セラル
- 一、昭和參年六月日本商工會議所顧問ニ推薦セラル
- 一、昭和參年六月日本商工會議所顧問ニ推薦セラル
- 一、昭和參年拾月貳拾六日紺授章ヲ授ケラル
- 一、昭和四年參月四日勳二等瑞寶章ヲ授ケラル
- 一、昭和四年四月壹日金杯壹組ヲ授ケラル
- 一、昭和四年七月拾八日國際貨借審議會委員ヲ被仰付同會特別委員長ニ選任セラル
- 一、昭和五年一月貳拾壹日臨時產業審議會委員ヲ被仰付同會特別委員長ニ選任セラル
- 一、昭和五年五月六日東京商工會議所重要商工業電氣事業代表議員東京電燈株式會社ノ代表者ニ選任セラル
- 一、昭和五年五月東京商工會議所會頭ニ就任
- 一、昭和五年六月國際觀光委員會委員ヲ被仰付
- 一、昭和五年六月日本商工會議所會頭ニ就任
- 一、昭和五年六月日本商工會議所會頭ニ就任
- 一、昭和五年六月東京電燈株式會社取締役社長ニ兼務就任昭和八年拾壹月貳拾五日辭任
- 一、昭和五年六月東京電燈株式會社取締役社長ニ兼務就任昭和八年拾壹月貳拾五日辭任
- 一、昭和五年八月貳拾八日昭和肥料株式會社取締役會長ニ就任
- 一、昭和五年九月拾八日中央職業紹介委員會委員被仰付引續キ重任
- 一、昭和五年拾月五日造船業改善委員會會長ヲ委囑セラル
- 一、昭和六年四月貳拾壹日全國產業團體聯合會會長ニ就任
- 一、昭和六年八月拾壹日統制委員會委員ヲ被仰付同會特別委員長ニ選任セラル
- 一、昭和六年八月拾八日米穀委員會委員ヲ被仰付昭和八年拾月貳拾參日ニ至ル
- 一、昭和七年參月參拾壹日日本經濟聯盟會會長ニ就任
- 一、昭和七年七月壹日日本銀行參與ヲ被仰付
- 一、昭和七年七月拾壹日貴族院議員ニ當選ス
- 一、昭和八年拾月貳拾參日米穀統制委員會委員ヲ被仰付
- 一、昭和八年拾壹月拾八日日滿實業協會會長ニ就任
- 一、昭和九年四月貳拾壹日日本製鐵株式會社取締役ニ就任
- 一、昭和九年參月九日日本團體生命保險株式會社取締役會長ニ就任
- 一、昭和九年四月貳拾九日昭和六年乃至九年事變ニ於ケル功ニ依リ旭日重光章ヲ授ケラル
- 一、昭和九年九月貳拾七日小賣業改善調查委員會委員ヲ委囑セラル
- 一、昭和拾年六月拾八日實業教育振興委員會委員ヲ委囑セラル
- 一、昭和拾年拾壹月拾八日教學刷新評議會委員ヲ被仰付

- 一、昭和拾年拾貳月拾六日從三位ニ敍セラル
- 一、昭和拾壹年拾壹月貳拾壹日米穀自治管理委員會委員ヲ被仰付
- 一、昭和拾壹年拾貳月貳日東京商工會議所會頭辭任
- 一、昭和拾壹年拾貳月七日東京電燈株式會社取締役會長辭任
- 一、昭和拾壹年拾貳月拾日昭和肥料株式會社取締役會長辭任
- 一、昭和拾壹年拾貳月貳日日本商工會議所會頭辭任
- 一、昭和拾壹年拾貳月七日依頤日本銀行參與被免
- 一、昭和拾貳年貳月拾五日東京電燈株式會社相談役ニ就任
- 一、昭和拾貳年參月五日財團法人實業教育振興中央會評議員ヲ委嘱セラレ、同月貳拾六日同評議員會會長ニ選任セラル
- 一、昭和拾貳年拾月拾五日內閣參議ヲ被仰付
- 一、昭和拾貳年拾月拾七日大藏省顧問ヲ被仰付
- 一、昭和拾參年四月參拾日北支那開發株式會社及中支那振興株式會社設立委員長ヲ被仰付同年拾壹月七日兩社設立セラルニ及ビ退任
- 一、昭和拾參年拾壹月拾日帝室博物館顧問ヲ被仰付
- 一、昭和拾四年六月五日大日本航空株式會社設立委員長ヲ被仰付同年九月貳日同社設立セラルルニ及ビ退任
- 一、昭和拾四年七月五日興亞委員會委員ヲ被仰付
- 一、昭和拾四年八月拾八日財團法人興亞工學院會長ニ就任
- 一、昭和拾五年八月參日依頤內閣參議被免
- 一、昭和拾五年八月貳拾九日財團法人日本貿易振興協會會長ニ就任
- 一、昭和拾五年拾月參日內閣參議ヲ被仰付
- 一、昭和拾五年拾月大政翼賛會顧問ニ就任
- 一、昭和拾五年拾壹月貳拾參日大日本產業報國會顧問ニ就任
- 一、昭和拾五年八月貳拾九日重要產業統制團體協議會會長ニ就任
- 一、昭和六年四月拾九日重要產業統制團體協議會會長ニ就任
- 一、昭和六年五月貳拾九日財團法人世界經濟調查會會長ニ就任
- 一、昭和七年壹月拾九日薨去正三位勳一等ニ追敍セラル

本 會 概 況

八

本會は寄附行爲第三條に示されてゐる通り世界經濟實情を調査し諸外國との經濟提携を促進し以て國策に寄與する目的として、從來日本經濟聯盟會内に設置された對外委員會の事業其他一切を繼承し、昭和十六年五月二十九日創設された外務大臣監督下の財團法人であつて本部を東京に支部を大阪に置いてゐる。

如上の目的を達成するため、本會は北米、拉米、獨逸及び英國の各經濟研究部並びに世界機構研究部を設け各々所管項目に關して調査研究に當らしめ、またこれと併合して米國經濟研究委員會及び獨逸經濟研究委員會並びに其他特殊事項に關する數箇の研究委員會を朝野諸方面の人士を委員として構成し、各々毎週會合を開き、情報の提供乃至意見の交換を行ひ、兩々相俟つて使命遂行に邁進してゐる。

本會は創立以來日も未だ浅いのであるが、一應纏めあげた調査もすでに若干あり、また時々刻々生起する多種多様の問題に就いても迅速に正確な資料の提供を行ひつゝある。今後も怠らず精進を續け、一層調査研究の充實を計り、以ていさかなりとも國策へ貢献するところありたい。

大方の御援助を懇願して止まぬ次第である。

第二回 理事會

第二回理事會は昭和十六年十一月二十六日（水曜日）午後五時より丸之内中央亭に於て開催し、要領別項の通り澤田理事長より挨拶及び報告を爲し、左記議案を審議、原案通り可決し午後五時半閉會、引續き晚餐を共にしつゝ種々懇談した。

當日の出席者及び臨席者氏名は後掲の通りである。

議 案

第一號	財團法人世界經濟調查會	昭和十六年度歲入歲出更正豫算案
第二號	同	同 基本財產特別會計歲入歲出豫算案
第三號	同	同 退職資金特別會計歲入歲出豫算案
第四號	同	事務局職制案
第五號	同	同 事務分掌規程案
第六號	同	同 職員服務規程案
第七號	同	同 休職規程案

- 第八號 同 研究部規程案
 第九號 同 客員設置ニ關スル規程案
 第十號 同 大阪支部規程案
 第十一號 同 會計規程案
 第十二號 同 基本財產特別會計規程案
 第十三號 同 職員退職資金特別會計規程案
 第十四號 同 給與及旅費規程案
 第十五號 同 金錢預入先ニ關スル規程案

出席者及び臨席者氏名（敬稱略）

理事長	澤田節藏	理事	山梨武夫	參與	武藤章
常務理事	守島伍郎	同	宮本武之輔	同	岸偉一
同	蘆野弘	監事	荒井誠一郎	同	山越道三
同	鮎澤巖	同	藤山愛一郎	同	石橋長英
理	八田嘉明	同	高島誠一	財務監督	野呂一雄
同	岡田永太郎	參與	菱沼勇		

澤田理事長挨拶及び報告要領

豫て御通知申上げました通り、財團法人世界經濟調査會の第二回理事會を開催致します。本日は鄉會長が御病氣御引籠り中でありますので私が代りましてこの席を汚します。

各位が、時局柄極めて御繁忙にも拘らず特に御縹合せの上御出席賜りましたことを厚く御禮申上げます。

これから本會の財務並びに諸規程に關して御手許に差上げてあります諸議案につき御審議をお願ひ致し度いと存じますが、その前に一通り諸般の御報告を致します。

先づ財務につき申上げます。

議案第一、第二、第三號は昭和十六年度豫算に關するものであります、これは本年六月二十六日に開催されました第一回理事會に於て申上げておきましたところに從ひ作成致しましたが、殊に後者に於ては、從來の北米經濟、獨逸經濟兩研究部に加ふるに新に拉米經濟、英國經濟、世界機構等の各研究部を設けまして、本會の目的達成に遺

議案第四號乃至第九號は事務局及び研究部の組織職能に關するものであります、これについては、第一回理事會に提出致しました昭和十六年度事業計畫に、其の後に於ける各般の情勢の變化に鑑み多少の修正を加へ實施致しまして居ります。事務局研究部共に對外委員會當時の機構を擴充致しましたが、殊に後者に於ては、從來の北米經濟、獨逸經濟兩研究部に加ふるに新に拉米經濟、英國經濟、世界機構等の各研究部を設けまして、本會の目的達成に遺

一二

憾ながらんことを期しました。後刻委細説明を御聽取の上、同様御審議御承認をお願ひ致します。

議案第十號は本會大阪支部設置に關するものであります、從來大阪に於て毎月二回宛程會合を開いて居りました米國經濟事情其の他に關する研究委員會を今般寄附行爲第二條第二項により本會大阪支部と致し度い意嚮であります。併せて御審議御承認をお願ひ致します。

尙この機會に一言つけ加えますが、本會には事務局、研究部以外に朝野各方面の方々を委員として諸般の經濟問題の調査研究をなす各種の研究委員會が御座います。これまた對外委員會當時の機構を擴充致しまして、現在米國經濟、獨逸經濟、英國經濟の各研究委員會及び其他數個の特殊事項に關する研究委員會を設けて居ります。研究部と相俟つて本會機能の充分なる發揚を期して居る次第であります。

次に役員につき申上げます。現在の本會役員は御手許に差上げてあります報告書の通りであります。

最後に事務所の件に關し申上げます。

本會の事務所は現在本部を麹町區有樂町東日別館内に置いてゐるのであります、事業の擴大に伴ひ非常な手狹を感じ本部以外に六ヶ處の分室を設けて居る次第であります、これは事務の遂行上極めて不便でありますから三菱地所株式會社と交渉の結果、同社に於いて大手町常盤橋際に二階建延三百坪の家屋を新築し本會に貸與せられることとなり、目下建築中であります、近く竣工、本年中には移轉出来る見込であります。

終りに臨み、對外委員會當時からの本會に對する非常な御援助に感謝の意を表し併せて今後の連絡を圓滑にするため、去る十月十五日から十一月二日まで不肖が満洲國に參りました節、同國官民各位が不肖一行に與へられた御厚誼に對し、深く御禮を申上げます。

大阪支部發會式

大阪支部發會式は昭和十六年十一月二十九日午後零時半より大阪市北區大ビル俱樂部に於て開催し、要領別項の通り澤田理事長、八田理事及び岡田支部長の挨拶あり、更に加藤少佐より「米國戰備の研究」と題する講演があつて、午後五時十五分閉會した。當日の出席者氏名は次の通りである。

出席者氏名（順序不同、敬稱略）

奥 信 一	細 田 秀 造
鳥 越 新 一	堀 前 原 謙 治
山 家 正	新 吉 田 初 次 郎
大 島 堅 造	六 角 三 郎
岡 野 清 豪	岡 田 永 太 郎
川 崎 芳 熊	島 島 正 雄
岸 本 彦 術	

三

一四

新庄清一

平井好一

關桂三

牧野宏策

塙田公太

神野亮二

星野金之助

澤田節藏

蘆野弘

八田嘉明

大橋薰

守島伍郎

松澤安藏

澤田理事長挨拶要領

本日財團法人世界經濟調査會大阪支部の發會式を擧げ併せて支部長の推舉を行ふに際し御多忙中にも拘はりませず御出席被下ました皆様に厚く御禮申上げます。

鄉會長も出席の御豫定でありますたが、御健康狀態が許されぬため來阪出来ず非常に殘念がつて居られ、會員諸氏に吳々も宜數との事であります。

對外委員會當時から御協力を願つて居ります方々は御承知のことであります、新しい會員諸氏のために一應本會並びに當支部の生ひ立ち其他につき御説明を致し度いと存じます。

支那事變完遂のための經濟工作の一部として、日本經濟聯盟内に對外委員會の設立を見ましたのは二年半程前のことであります。然るにその後世界大戰の勃發するあり、時局の進展は吾人をして當初の目的のみに關はることを許さず、世界有力諸國の經濟實情を調査研究し以て經濟戰の一翼を荷ふべきことが要望されるに至りました。よつて本年五月末、鄉誠之助男、八田嘉明氏及び不肖が發起人となり、對外委員會の機構を改組擴充して、世界經濟調查會を設立することとなり、同二十九日外務大臣の監督下に財團法人として誕生したのであります。

尙ほ本會には對外委員會當時から、米國經濟研究委員會、獨逸經濟研究委員會及び其他數個の特殊事項に關する研究委員會があり、當大阪には米國經濟研究委員會支部が設けられ、毎月二回平均の會合を重ね、研究部の調査研究と相俟つて本會目的の達成につとめ、經濟方略遂行上に若干の貢獻を爲し來つたのであります。

この大阪支部を今般米國經濟研究委員會支部でなく世界經濟調査會支部と致すことと相成り、昨る二十六日の第二回理事會に於て、支部規程も承認され、又支部長も會員諸氏及び外務省其他關係諸方面の總意により大阪商船會社々長岡田永太郎氏に決定致しましたので、本日茲に發會式を行ふ運びとなつたのであります。

岡田氏は特に國際問題に造詣深く又強い關心を有して居られます。かゝる方が支部長に就任致されましたことは本會にとり誠に慶祝至極なことと存じます。

尙この際一言づけ加へますが、本會は現在、米洲經濟事情、歐洲經濟事情及び世界機構並びに其他特殊事項に關し各々研究部を設けそれ／＼調査研究に當らしめ、又これらと併行して前述の各種研究委員會を毎週一回宛開催し各方面の權威に御集り願つて、世界各地よりの情報を持寄り、或ひは意見の交換を行つて居ります。委員諸氏に於かれましても多々得るところがあらうかと思ひます。

一六

終りに臨みまして、從來一方ならぬ御世話を戴いた大阪商船會社の方々に改めて御禮を申上げると共に今後も倍舊の御盡力をお願ひ致し、同時に岡田支部長初め委員各位の懇篤なる御協力を切にお願致します。

八田理事挨拶要領

本日は鄉會長自身御出席になり御挨拶申上る豫定でありますたが、御承知の如く病氣御引籠中なので不肖が會長代理として參上致しました次第で會長よりも吳々も宜敷との事でありますた。

不肖の役目としては大阪支部の設立に敬意を拂ひ又將來も此の上共御盡力を煩し度いと會長の意向を御傳へすれば使命を達する譯でありますたが、尙不肖自身の考へを若干述べさせて戴き度いと思ひます。

本會の特徴は理事長の先程述べられた通りでありますたが、日本經濟聯盟對外委員會が時局の要請に應じ改組擴充されて新しく出發しましたのは五月末でありますたが、其以前より今日迄官廳、民間の人々の御協力御指導の下に各委員會が開催されて參りました。各委員は早朝より御出席なされて熱心に盡力されて居られました。此の點他の同種委員會とは大に趣きを異にすると思つて居ります。

特に大阪の各委員が御多用中にも拘らず屢々各種委員會に出席され又創立總會の時には態々上京して戴いた事等に對しては特に感謝する次第であります。今回大阪支部が新設され又新會員が増加される事になりましたのは誠に心強い次第であります。

岡田氏が今回支部長に就任されましたが今後共色々と御世話に相成る譯で誠に感謝に耐へません。

時局は極めて重大であります。此の時に際し變轉極りない世界の情報を集め分析研究して出來得る限り各國の姿を正確、詳細に摑み戰時、平時に於ける國策の遂行、經濟の發展に活用し得れば幸甚だと思ひます。此の爲には東京の本部と大阪の會員諸氏が呼應して強い樞軸を結成して努力し、藉るに時日を以て致しますれば相當の成果を期待し得ると思ひます。會員諸氏に於かれては此の樞軸の線を太くし之を肉附ける様御盡力を御願ひ申上げます。故後藤伯が滿鐵總裁であられた頃同社に調査部を作るに當り「今後の戰争に於ては武力戰に於ける勝利が眞の勝利にならぬ、戰爭の終つた時經濟的に無力であつては袋叩きになる丈である、斯る憂目を見ぬ爲には相手國の長短を知り内に於ては調査機關を設けて技術的時間的に最新の資料を備へる可きである」との意味を述べられた事がありましたが、本會も單に現前の事態に對しては或は充分目的を達し得ないかも知れませぬが、次の機會に於て成果を擧げる丈でも結構だと思ひます。

尙最後に今日御多忙中にも拘らず態々御出席被下ました方々に敬意を表すると共に今後共御鞭撻被下る様御願申上げます。

岡田支部長挨拶要領

本日大阪支部の發會式に當り態々御出席被下れ有難く御禮申上げます。

又先程は澤田理事長より私に對し大阪支部長をやつて吳れとの御懇篤なる御薦めで有難く御受けすると共に併せて會員諸氏の御支援を願ふ次第でありますたが今後共本部指導の下に出來る限り御期待に副ふ積りであります。

澤田理事長滿洲國出張

一八

滿洲國政府は本會の事業に就て深甚の關心をもたれ、既に本會の前身である日本經濟聯盟會對外委員會時代より非常な御支援御協力を與へられてゐるのである。

本年五月財團法人世界經濟調查會として發足以來本會は世界の經濟實勢を調査し、以て大東亞共榮圈の確立、聖戰の完遂に應分の寄與を爲すべく凡ゆる努力を傾けつゝあるが、此の機會に本會に對する滿洲國政府の從來の御援助に對し感謝の意を表すると共に將來の連絡を圓滑にするため理事長澤田節藏は大橋、松澤兩秘書を帶同去る十月十五日東京發十一月二日迄十九日間に亘り滿洲國へ出張した。

澤田理事長は明治四十二年故小池奉天總領事のもとに副領事として滿洲に在勤し、また滿洲事變當時は壽府に在つて奮闘したのであるから、理事長自身にとつても滿洲國は非常に思ひ出の深い土地である。尙ほ其後にもブライル駐劄直前、建國早々の滿洲國を視察して居り道順こそ逆に取つては居るが今度は既に五度目の訪問である。從つて同地に知人も多く、滿洲國政府、滿鐵を初め朝野諸方面ともよく本會の事業を諒とせられ、我々一行に對しても格別の厚意を與へられた。茲に深く感謝の意を表し、今後一層の御援助を懇請する次第である。

尙ほ旅行日程は大略次の通りである。

日 程

- | | |
|----------|---|
| 十月十五日(水) | 上野發。 |
| 同十六日(木) | 新潟發白山丸にて羅津に向ふ。 |
| 同十七日(金) | 朝來北風強く逆浪を誘ひ、食堂も閑散。 |
| 同十八日(土) | 天氣晴朗なるも浪高し。浮遊機雷に驚く。羅津着。日本海汽船羅津支店長青木淳氏の出迎を受けヤマトホテルに入る。青木支店長主催晩餐會に出席。 |
| 同十九日(日) | 羅津發。 |
| 同二十日(月) | 吉林着。上森外務局事務官及び水力電氣建設局福永事務官の案内にて吉林ダム見學。吉林發。新京着ヤマトホテル泊。 |
| 同二十一日(火) | 關東軍、帝國大使館訪問。國務院を訪問し張總理と會談。總理官邸に於ける武部總務長官主催午餐會に出席。外務局長官訪問。宮內府伺候。阮交通部大臣訪問。大使館參事官主催晩餐會に出席。 |
| 同二十二日(水) | ヤマトホテルに於て鮎川滿業總裁と會談。梅津關東軍司令官訪問。中銀クラブに於ける特殊會社側主催午餐會に出席。武部總務長官外有力者をヤマトホテルに招待。 |
| 同二十三日(木) | 大使館邸に於ける梅津大使主催午餐會に出席。中銀クラブに於ける外務局次長主催晩餐會に |

出席。

二〇

- 同 二十四日(金) 新京發。奉天着。大村滿鐵總裁と會談。滿鐵弘報課主催座談會に出席。總裁邸に於ける大村總裁主催晩餐會に出席。ヤマトホテル泊。
- 同 二十五日(土) 滿洲飛行機製造株式會社、滿洲三菱機器株式會社、同和自動車工業株式會社及び滿蒙毛紡株式會社の各工場見學。ヤマトホテル泊。
- 同 二十六日(日) 奉天發。撫順着。炭鑛、人造石油工場及び特殊鋼製造工場見學。撫順發。奉天着。ヤマトホテル泊。
- 同 二十七日(月) 奉天發。鞍山着。大孤山採鑛所見學。干沖漢氏記念碑除幕式に參列。株式會社昭和製鋼所見學。湯崗子泊。
- 同 二十八日(火) 湯崗子發。大連着。
- 同 二十九日(水) 孫大連辨事處長主催午餐會に出席。關東廳長主催晩餐會に出席。
大連發。
- 同 三十日(木) 門司着。下關發。
- 十一月 一日(土) 東京着。
- 同 二日(日)

蘆野常務理事上海出張

歐洲戰爭勃發以來調査資料の拂底には、何處の研究所でも困つて居られる事と思ふが、當會の如き新興の調査會にあつては、一層其の嘆が深い。それで役員研究員一同總掛りで手分けをして、兎も角必要最少限度の書籍雑誌丈は取揃へる様苦心して居るが、これが爲には國內丈では十分でない。そこで廣く外國にも出来る限り連絡を求めて蒐集する途を講ずる事にし、先づ差當り手近な上海には、直接に人を出すのが適當であらうと云ふ事になり、常務間滯在して、既存の資料の蒐集に力むると共に、今後新に外國から入り来るべき資料入手の路の研究を遂げた。同地は古くから外國との接觸が密で、殊に米國方面との交通が日本より後迄繼續して居る關係もあり、得る所頗る多かつた。さらに此の機會に一行は廣く現地機關代表者と懇談し、現地の事情を問ふと共に本會の使命に付御理解を得る事に努力した。此の方の收穫は一層多かつた事を覺える。尙ほ此の一行の旅行に種々便宜を供せられ、其の他厚意を寄せられた向は、官廳側を始め頗る多い。茲に併記して深甚の謝意を表したい。

ヴォールタート氏講演會

二三

本會は昭和十六年十月一日午後四時、糖業會館に、訪日獨逸經濟使節團長ヘルムート・ヴォールタート氏を招待し講演會を開催した。

當日は左記諸氏の出席あり、澤田理事長の挨拶に次でヴォールタート氏より「歐洲新秩序に就いて」と題する要旨別項の講演(詳細別冊)が行はれた。

出席者氏名(五十音順、敬稱略)

伊藤和雄	手塚晚三
池田卓一	戸田貞次郎
出田富也	西森茂吉
大島永明	八田嘉明
岸偉一	荻原繁
小瀧道三	林悌助
林道彬	敏男

佐藤述	藤瀬五郎
佐分利健	二村貞信
柴山馬	藤森圓鄉
島居辰次郎	星野運一郎
住谷悌	松隈國健
高岡尚	松浦暢
坂田收	吉田八三
田中鐵三郎	森武
澤田節藏	守島伍郎
荒木光太郎	鮎澤巖
岡本季正	野呂一雄

澤田理事長挨拶要領

一言御挨拶申上げます。

本日は目下御來朝中の獨逸經濟使節團長ヘルムート・ヴォールタート氏を御招待申上げて茶會を開催致しました所、

時節柄公務御多端にも拘はりませず斯くも多數の御來賓を得ました事は、主催者側として洵に光榮と存する次第であります。

二四

ヴォーレタート氏は皆様既に御承知の如く獨逸本國に於かれてはシュターツラート四ヶ年計畫局長として並々ならぬ御功績を挙げられ、今回は又、訪日獨逸經濟使節團の團長として本年四月來朝され、爾來我國朝野の各方面と連日會見されて、日獨經濟提携の強化の爲に御盡瘁されて居られるのであります。此度本會に於いて「歐洲新秩序に就いて」と云ふ題目の下に御講演を御願ひ政しました所、連日御繁忙の中を狂げて御快諾下され、本會の爲に御高見の御一端を御漏し下さる事となりました。我々主催者は御列席の皆様と共に、ヴォーレタート氏に萬腔の感謝を捧げたいと思ふのであります。

今日の世界情勢は洵に變轉極りなく國際的不安は日に月に増大しつゝありますが、之が解決は、國際的信義の強調と國際的經濟提携の強化とに俟つ事極めて大なるものがあると信んずるものであります。而して、今や獨逸が國を擧げて歐洲新秩序の構想の實現に努力されてゐる事に對して、我々は心からの敬意を拂ふ者であります。

世界經濟調查會は、本年六月、世界經濟情勢を調査し、諸外國との經濟提携を促進し以て大東亞共榮圈の確立に寄與する目的を以て設立されたものであります。本日ヴォーレタート氏を御招待申上げて親しく膝を交へて彼我の意思の疏通を圖らんと致します事は本會の事業の一部である事申す迄もない所であります。而して、之を機會に益々日獨の經濟提携が促進される事と相成りますれば、此席を設けた目的の大半は達せられるものと存するのであります。

何卒各位に於かれましても講演後腹藏なく御質問なり御意見なりを御開陳下さいますやう、以上を以て簡単ながら開會の御挨拶と致します。

ヴォーレタート氏講演要旨

歐洲新秩序に就いて

以上述べるところは私自身の意見にすぎず何等公式のものでないことをお断りする。

先づ、歐洲の政治的新秩序を樹立する爲には、獨伊を指導者とする歐洲モーロー主義を立てる必要がある。今次の歐洲大戰の直接の原因が、獨逸ボーランド問題に關係を有せざる英國が之に容喙した爲であつたといふ事を想へば、現在は勿論、將來も歐洲内部の問題に就いて、歐洲大陸以外の諸國、就中、英米の容喙を許さない様にする事が絶対に必要である。この點は東亞新秩序建設の場合も同様で、米國の容喙を絶対に排斥すべきであると思ふ。

次に、歐洲共榮圈の範圍如何。歐洲共榮圈は東歐、東南歐、西歐、北歐および地中海地域を含む。東歐は、目下獨ソ戰の進行中でその國境確定は現在の所困難である。尙、地中海地域にはアフリカ北岸の諸國が含まれてゐる。何れにせよ、將來は恒久性を有する國境を設定する事が必要であり、夫が爲には、他國領土内に散在せる國民を夫々自國に歸住せしめる事が必要であらう。

歐洲各國の恒久的な經濟通商政策を確立する爲には政治の安定を先決條件とするが、是迄の經濟的混亂の原因が國際的信用の不均衡なる分布といふ點にあつた事を想へば、將來は先づ國家間の債務關係を徹底的に整理し、以て國際的資本關係に依り政治が左右されざる様にすべきである。

二六

今日世界の金の四分三以上が米國に集中してゐる。そこで金なき對外貿易の可能性が問題となるが、それは可能であると思ふ。之が爲には過去八ヶ年歐洲各國に於て實驗済の貿易統制が役立つであらう。但し將來は各國が國際的個人主義を揚棄して全歐洲の利益増進の爲に協力する事が必要である。

歐洲新秩序は決してアウタルキーを意味しない、否寧ろ歐洲は進んで他の大陸との通商の促進に努めるであらう。例へば米大陸より農産物を輸入して逆に工業製品を輸出するが如きである。若し世界が少數のプロツクに分割すれば、或は各プロツク間に世界的商品に就いて輸入割當制が實施されるかも知れぬ。東亞共榮圈に於ても、日本は大陸資源の開發を各國と協力して行ふべきであり、日本の工業生産力は大陸の廣大なる市場の需要を充たし得ない爲め各國にその門戸を解放すべきと思ふ。

最後に、獨逸は占領地域に對して如何なる經濟工作を實施してゐるか。一言にして云へば、被占領國の國民に對して獨逸國民と同一の生活水準が保障されてゐる。又、被占領地域の工業を維持する爲、獨逸から巨額の發註がなされてゐる(或る占領地域の如き其額は既に十億マルクに上つてゐる)。又、占領地域の國民に對し獨逸國內への出稼と故國への送金とを許してゐる(出稼人數は既に二百萬人に達してゐる)。占領地域の通貨に對しては獨逸國內の從來の通貨管理か或は占領地域のそれを擴充適用して貨幣價値の安定に努めると共に、各占領地域間に貿易の機會を與へ、その決済はすべて伯林を通じて行ふ綜合清算制度を實施してゐる。

委員會及び研究部概況

會報第一號に引續いて委員會と研究部とのその後の活動を概觀しよう。何よりも先づ大東亞戰爭の勃發は當然委員會や研究部の事業に極めて甚大な影響を及ぼし、又今後も及ぼすであらうがその影響は今の所まだ十分に測られぬほど大なるものがある。ここで一例だけを擧げてみても、我々の調査研究の生命とも云ふべき資料の問題がある。獨ソ戰爭や、對日資金凍結などで既に乏しくなつてゐた資料の入手は今後尙一層限られざるを得ない。我々としては凡ゆる可能な方策を講じてゐるが別項に述べてある蘆野常務理事一行の上海出張もその一つに他ならない。

次に新事務所への移轉のことは亦本號に掲げてあるが、これが委員會や研究部の仕事の上に與へた好結果のことも一言附加へておきたい。從來兎角相互の連絡に缺けるところのあつた各研究部が一堂に集つたことの利益は必ず今後何等かの形で現はれるものと期待される。以下當會の運營しつつある各委員會及び研究部の内、主なものに就て若干の概觀を與へたいと思ふ。

第一 委員會の事業

一、大阪支部委員會

二七

二八

會報第一號に於て大阪委員會の概況を報道し、やがて當會大阪支部の設置が期待されてゐることを述べておいたことは昨年十一月に實現し、別項の如く盛大な發會式が舉行され、同時に委員の人數も相當數の増加を見た。試みに昨年八月初から十二月末迄の五ヶ月間に於ける大阪支部委員會の會合の狀況を數字で示すと會合回數十回、出席委員の延人數百六十三人に達してゐる。なほ、大阪支部委員會の委員諸氏は上京の都度東京側の諸委員會に出席され熱心に論議に加はられてゐる。洵に感謝に堪へない次第である。

二、米國經濟研究委員會

この委員會もその後益々順調に續けられつつある。八月から十二月までの五ヶ月間殆んど毎週缺かさず水曜日午前八時半から開催し會合回數前後二十回、出席委員延人數三百四十八名を算するに至つてゐる。本委員會では米洲に關する凡ゆる時事問題に就て情報及び意見の交換が行はれて來たのであるが、大東亞戰爭勃發以後、情報は極めて限られる事態となり、また新しい歸朝者の如きも期待し得ないので、今後は一方に於て此等の貴重な情報の交換を續けると共に、他方に於て緊切な問題を捉へて系統的に討議することをやつて行き度いと考へてゐる。

三、獨逸經濟研究委員會

既に前號で述べたところからも推察し得るやうに、本委員會は獨逸經濟と稱するものの實は獨逸を中心とする歐洲新秩序の諸問題を論議することを當初から心がけて來て居り、過去半年間に於ては獨ソ戰爭を中心として右の傾向は一層強められてゐる。これと同時にこの新秩序の核心たるべき獨逸の戰時經濟力如何の問題も亦順次取上げら

れるに至つてゐる。この委員會も米國委員會と同じやうに一週一回(金曜日午前八時半)の例會を行つて來たので、八月初から昨年末迄には二十回の會合をなし、委員の出席延人數も實に三百八十七名の多數に上つてゐる。

第二 研究部の事業

一、米國經濟研究部

本稿の冒頭にも述べてある通り昨年末に新事務所が出来上つて一同が一つ屋根の下に住めるやうになつたことは當會全體として利便此上もないことであるが、分けても米國經濟研究部はそれまでは溜池、有樂町、後樂園と三ヶ所に分散してゐたこととて此の有難さを一入痛感してゐる。研究員の意氣込も亦一段と違つてきたことは申す迄もない。加ふるに今や米國は我々の正面の敵である。アメリカの戰時經濟力を測定しようといふ我々の調査も此の時局に際して何程かお役に立つことあらうかと考へて一層拍車をかけてゐる次第で資源、動力、工作機械、鐵道交通、貿易等の各項目に就いてはいづれも既に一應報告書の起草を完了し或るものは發表され、或るものは目下精査中にある。今後は新しい資料の入手が極めて困難となると豫想されるが、これを切抜けるためには凡ゆる手段を盡すつもりである。なほラテン・アメリカの重要性が次第に増大せるに鑑み、本研究部はその研究員の一部を割いて同地域に關する調査研究に從事させるに至つてゐるが、不取敢南米産業交通地圖を始め各種の政治經濟地圖の作成と拉米人名錄の編輯とを急いでゐる。

二九

二、獨逸經濟研究部

三〇

會報第一號に掲げておいた獨逸と世界各地域との貿易關係（今次戰爭前）は昨年末一應終了したので今後は之を補正して一つの報告に取纏める仕事にかかる筈である。これと同時に獨逸占領地の經濟工作の問題を取上げて調査を進め、まづ第一着手として不取敢この問題に關する文獻目錄の作成に努めてきたが、これは大體目鼻がついた。これからは目錄に記載された主要な文獻を參照して占領地經濟問題を次第に纏めて行く豫定である。そのほか、特別題目として本研究部が取扱ひつつあるものには歐洲食糧問題、獨逸と東亞との經濟關係、ナチス政治組織、獨逸在外機關の組織等々の事項をあげることが出來やう。また、獨逸の戰時經濟法令を邦譯編纂する仕事も昨秋から續行されてゐて、これは一區切り出來上る毎に順次刊行することとしたいと考へてゐる。

なほ他の研究部も多かれ少なかれ同じ状態にあると思はれるが、海外からの新聞雜誌類の杜絶は調査研究の上に多大の支障を來して居り、獨逸の定期刊行物類は昨年六月獨ソ開戦以來パツタリ杜絶して了ひ大いに困却してゐるが凡ゆる努力を傾注してこの困難を克服する決意である。

三、英帝國經濟研究部

本研究部設立以來主査として研究指導に當られた岡本季正氏は去る十月辭任され代つて蠟山政道氏が研究指導を引受けられてゐる。尤も從來の調査方針は極く部分的な補足を行つたのを別としてそのまま踏襲され之に基いて英國戰時經濟政策の調査研究が進められ、その第一部「英國戰時經濟政策概説」は既に昨年末一應終了し目下検討中

である。尙、これは本研究部だけに限つたことではなく一層廣汎な問題であるが、大東亞戰爭の勃發によつて我々は英國をも敵に廻して戦ひつるので、此の事態が我々の研究態度の上に及ぼす影響といふものは真剣に考慮されねばならない。研究の根本方針に變更を加へない場合でも、その重點の置き方は當然再検討さるべきであらう。これら一聯の問題は調査會自體として慎重に考究しつつある。

基本的研究を進める一方、本研究部では英國に於ける最近十年間ほどの貿易統計の蒐集編成を行ひ、最近三ヶ年のエコノミスト及びロンドン・タイムス所載英國經濟對策關係記事索引を作成してゐる。なほ是は餘談に亘るが、岡本前主査はシンガポール總領事として大東亞戰爭勃發三日前にシンガポールに着任された由、その後御無事でゐられることを祈る次第である。

四、世界機構研究部

今次大戰の歸趨が世界政治及び經濟機構の上に重大なる變化を齎らすべきことは明白であるが、特に大東亞戰争の成果として建設さるべき新秩序の構想に關しては慎重なる研究を遂げることが喫緊事と考へられるので、當會世界機構研究部に於ては世界新機構の問題に關する資料の蒐集整理及び主要資料の紹介並に既存文獻による問題自體の研究を引續き進めつある外、他に既報の國際關係研究會との共同調査の形式に於て、本問題を政治、經濟、文化の三部門に分け、各部につき夫々専門的研究者の協力を確保し、頻繁に部會及び連絡會合等を開き、銳意調査の進捗を圖つてゐる。この調査は資料に關する豫備的段階に屬するものであるが、その結果を纏て第一次報告として取りまとめ、更に情勢を見究めた上必要に應じ第二次の調査に進む意図である。

三一

出版概況

三二

對外委員會當時からの本會既往出版物は次の如くである。

一、本會の著作乃至編纂にかかるもの

米國の人口構成

米國國防經濟力總覽（第一編 戰時必需資材）

（第四編 軍需工業 第一部 工作機械）

（第七編 貿易一般）

昭和一六、七、二八發行

昭和一六、五、同

昭和一七、一、六同

昭和一六、八、同

昭和一五、一、二八同

昭和一六、一〇、同

昭和一五、一、二八同

昭和一六、九、二〇同

昭和一六、五、三〇同

昭和一七、一、二八同

昭和一六、一二、三一同

昭和一六、一六、三一同

二、翻譯其他

米
禱

英米船舶問題の現狀

右のうち――

會報は本會活動狀況を報告するもの、彙報は本會の各研究委員會に提出せられた資料等を蒐錄せるもの、東亞的東亞は日滿華泰親善の目的の外、主として泰國民に我國情を周知理解せしむる目的を以て華語及び泰語を以て編纂せられたもの、

米國の入口構成及び米國々防經濟力總覽は本會米國經濟研究部の研究成果の一部であり、其他は米國經濟研究資料として編纂せられたものである。

昭和一六、三、二八發行

三三

ソ聯邦労働事情	11・1111同
太平洋戦争	111・1五同
占領地域に於ける通貨工作	111・11四同
世界經濟の轉換	111・11八同

III' East Asia Economic Intelligence Series

No. 1 - National Income of Japan	Oct. , 39
No. 2 Economic and Financial Conditions in Japan, Manchoukuo and China	Dec. , 39
No. 3 The Heavy Industry of Manchoukuo	Jan. , 40
No. 4 The Capital Market of Japan	May , 40
No. 5 The Canning Industry of Japan	July , 40
No. 6 The Shipping Industry of Japan	Oct. , 40
No. 7 The Currency and Finance of Manchoukuo	Dec. , 40

尙ほ近く發行を豫定されてゐるものには、會報(第貳號)、彙報(第貳輯)を初め、翻譯刊行物として次の如きものがある。

- 戦時經濟研究
- 印度の政治と經濟
- 兩大戰間に於ける獨佛英の社會政策
- アメリカの石油產業
- アメリカ政治經濟發達史
- 出生減退、その原因及び經濟的社會的影響
- 英國の労働事情

其他 Greater East Asia Economic Series (從來の East Asia Economic Intelligence Series) の 1 つとして「満洲の農業」の題するものが最近刊行される運びとなつて居り、また各研究部の研究成果その他も纏り次第出版されるはずである。

事務所新築及び移轉

三六

本會の前身である對外委員會が日本經濟聯盟内に呱々の聲を擧げて以來約二年半、その間時局の進展に伴ひ當委員會も亦著大の發展を遂げ、昨昭和十六年五月には獨立して、財團法人世界經濟調查會として新なる發足を爲すに至つた。

同事務局もこれにつれて日々に擴大し、もと對外事務局創設當初に於ては僅に四、五人に過ぎなかつた局員數も世界經濟調查會誕生の陣痛期に於てすでに最初の十倍を越へる數に達した。従つて事務所も次々に擴張され、遂には麹町區有樂町東日別館内に本室を置き其の他に六ヶ處の分室を持つと言ふ狀態であつたのであるが、依然として各局員が背と背を接し通路にも窮するが如き手狭さであつた。しかもこの趨勢は世界經濟調查會としての新發足を控へて愈々急迫し、尙その上に將來も本會の目的遂行の爲めには可成の數の増員を行はねばならぬことが確然と見透され、又事務室分散による能率の阻害も考慮さるゝに到つたので、相當の廣さを有する一棟の事務所用建物を持ちこの飽和狀態を克服して全局員を統合服務せしめることが必要となつて來た。

この時幸に三菱地所株式會社との交渉がとゞひ、同社が本會の爲めに事務所を新築貸與して呉ることとなり、地を常盤橋の袂にトし昨年八月二十二日地鎮祭を舉行、工事は順調に進捗し同十二月十日無事竣工した。

十二月十五日、壁もまだ生乾きであつたが、如上の緊迫状態を一刻も早く脱する爲めに、有樂町本室初めて六分室

の移轉を開始し、同十八日には全部を終了、研究部初め各部課ともに豫て割當てられてゐた通り各々の室に備品を搬入設置し、年末までに萬端の整頓を了した。この間に於ても、理事初め局員一同の努力によつて、會の運行上にはいさゝかの支障も起らず諸般の會務は平常通り滞滯なく進められた。

かくて局員一同が同じ棟の下で執務し得るのみならず、從來その都度工業俱樂部その他の一室を借用して行はれ來つた各研究委員會の會合も同一建物中の會議室で開催し得ることとなつたので、兎角滞り勝ちであつた各部課間その他の連絡も極めて圓滑となり、諸般の不利不便も全く解消し、全體としての能率發揮上に著しい好影響が齎された。

この事務所統合の效果は將來必ず何等かの形で我々の生命である調査研究の上に現れるものと期待される。

新事務所は麹町區大手町二丁目八番地の三常盤橋内の公園地區に隣接し、溢澤子銅像を眼のあたりにし、豪壯な日本、正金兩銀行並びに三越の大建築眺め頗る良好な環境に位する。建築設計は三菱地所株式會社岩間旭技師が擔當し、工事は大林組が請負ひ、建坪一五二坪四三、階上一四七坪、計一九九坪四三、外部モルタル塗の木造建築で卷頭の寫眞によつても察せらるゝ通り風致區に相應しい瀟洒な建物である。階上に會長、理事長室、常務理事室、大小會議室、研究室、主査室、製圖室、タイプ室、階下に總務部庶務課、文書課、會計課、事業部編輯課、弘報課及び調査部資料課の各室並びに研究別室、圖書閱覽室、應接室、印刷室、電話交換室、宿直室、小使室等を置き、暖房装置、採光通風等の點も遺憾なく設備されてゐる。

以上の如く現時局下にあつては殆んど理想的な事務所を得たのは全く三菱地所株式會社の好意によるもので本會の多とするところである。

三七

附
錄